



## 拡大を続ける電子マネー

電子マネーはレジでの決済時に暗証番号やサインが不要、スピーディーで、クレジットカードのポイントが貯まるなどメリットが大きいことから日常生活に浸透した感があります。また、駅やコンビニのほか、最近ではスーパーでの利用が進んでいることもあり、急速に普及が拡大しています。

### 1. 電子マネーとは

電子マネーには2つのタイプがあります。

支払い前にあらかじめチャージ（入金）する必要がある「プリペイド（前払い）型」と後から支払い代金を請求される「ポストペイ（後払い）型」です。

また、電子マネーが使える携帯電話（含スマートフォン）を「おサイフケータイ」と呼びます。読取り機に携帯電話をかざすだけで支払いができ、カードを財布などから取出す必要がないこともあり、利用が拡大しています。

### 2. 主な電子マネー

電子マネーは運営主体などによって次のように分類されます。

- プリペイド式

交通系：Suica（JR 東日本）、PASMO（首都圏エリア私鉄）、ICOCA（JR 西日本）

流通系：Edy（ビットワレット<楽天系>）、WAON（イオン）、nanaco（セブン&アイ）

- ポストペイ式（クレジットカード決済。事前チャージ不要。）

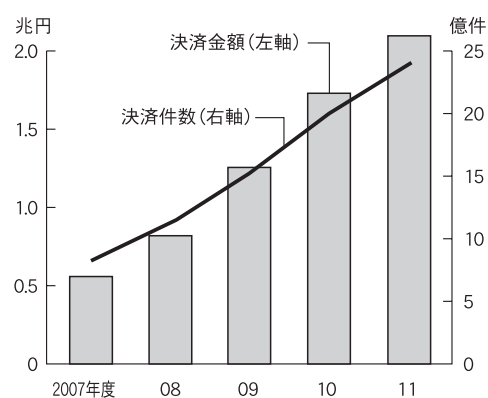
iD（NTT ドコモ）、QUICPay（JCB などクレジットカード会社）

### 3. 電子マネーの決済金額と件数

日本経済新聞社の推計によると2011年度の主なプリペイド式電子マネーの決済総額は10年度比3割増の2兆1000億円程度です。2001年に初の電子マネー「エディ」や「スイカ」が登場してから1兆円を上回るまで8年かかりましたが、その後は2年で倍増するなど急速な市場拡大が続いています。

また、2011年度の主要電子マネー（プリペイド式）の決済件数は前年比17.9%増の22億9390万件でした。東日本大震災後に一時利用が減少した影響で10年度（35%増）と比べ伸びは鈍化しましたが、各社はポイント増額や加盟店の開拓を進めて利用者を順調に増やしました。

電子マネーの決済金額と件数



(注) 2007年度から10年度は日銀まとめ、11年度は日本経済新聞社推計

(担当：斎藤英)